

安芸市福祉事務所
所長 長野信之 様

安芸市立川北保育所
所長 竹内由美



令和5年度川北保育所園評価最終報告書

1 保育所における自己評価の記録

月	自 己 評 価
4 月	○ 園経営計画の作成 ○ 本年度の重点目標の設定（評価計画） ○ 園評価項目・指標の設定 ○ 職員への園経営計画・園評価計画の説明と共通理解 ○ 保護者への園経営計画・園評価計画の説明
8 月	○ 中間評価の実施（職員の自己評価、園の自己評価）
9 月	○ 設置者への中間評価の報告、改善策の検討
11 月	○ 保護者に向けてアンケート調査実施
1 月	○ アンケートの集計・分析
2 月	○ 保護者に対してアンケート集計・分析結果報告 ○ 最終評価の実施（職員の自己評価・園の自己評価） ○ 最終評価の実施（設置者への報告・改善策の検討）

2 最終評価結果

総括的な自己評価結果について

<成果>

① 保育・教育活動の充実

体や手指を使った遊びを計画的に取り入れ、子どもが遊びに興味、関心の持てる教材を提示し、保育者も一緒に遊ぶことで、遊ぶ楽しさを子どもたちが感じ、活発に遊ぶ姿が見られるようになった。今年度は保護者の協力があり、色々な野菜を畑で栽培することができた。子どもが自分でまいた種からの生長を楽しむ姿や、給食の献立の食材にも興味が出てきた子どもが増えてきた。

② 職員の育成・資質向上や運営

研修には、積極的に参加し、自分の保育や対応を振り返り、研修内容も職員間で共有することができ、保育や支援に繋げることができた。保護者に対しての情報提供では、お便りをリアルタイムで出す事を意識し、カラーでの写真を多く掲載してきた。保護者からは、写真を入れる事で保育の様子が視覚でわかり、またカラー写真にしたことで子どもの表情もはっきりと見えて良いという意見や親子でお便りを見ながら、保育所での出来事を子どもから話すようになり、親子での会話が広がったとの声も聞かれた。

③ 地域に開かれた園づくり

小学校との交流は、保小連絡会、保護者に向けての校長の講話（2回）、授業参観、教職員との夏季交流会、地域の方と教職員との交流会、五年生と園児の遊びの交流会、行事での交流を行った。地域との交流では、高齢者サロン、芸能祭などに参加し、全園児の可愛い踊りを披露する事ができた。新たな試みとしては、ハロウィンで地域の事業所を、園児が仮装して周り交流する事ができた。小学生との遊びの交流では、遊びを通してふれあうことで、お互いが親近感を持ち、楽しい時間を過ごすことが出来た。仮装しての地域の訪問は、普段とは違った子どもの表情が見え、子どもたちをより身近に感じる事ができた。来年もぜひ来てほしいとの声が多く聞かれた。

<課題及び主な改善策>

- ① 子どもが体や手指を使った遊びの選択を今以上にできるように、保育室内の材料や道具等、環境の再構成を図る。菜園活動で食育に興味関心が出てきた子どもが増えたので、さらに、食の大切さなどを伝えていく取り組みを続け、食育で「食を営む力」を身につけていく。
- ② お便りの作成では、日々の保育を伝える内容になりがちなので、紙面の中に保育者のねらいや伝えたい事がわかるような、紙面のレイアウトや作り方の研修会に参加し、学んでいく。
- ③ 保護者間の交流の場や学習の場が少なかったため、親育ち支援担当者を中心に保護者のつながりを深める場を設ける。

経営の柱	今年度の重点目標	評価項目	評価指標と評価結果				分析・考察
			取組指標	結果	成果指標	結果	
☆保育・教育活動の充実	豊かな心と丈夫な体の育成	【指導内容・方法】 体や手指を使って遊ぶ	4 保育者も一緒に遊びながら楽しさを共有したり伝えたりする	3.3	4 体を使ったり、手指を使った遊びをしようとする子どもたち 90%以上	3.3	園外で体を使い、遊ぶ時間を意識的に設けてきたので、進んで外で遊ぶ子どもが多くなった。また、手指を使い自由に制作して遊べる環境を設定することで、道具を使い遊ぶようになった。
			3 子どもが自ら関わられる環境の工夫をする		3 75%以上		
			2 体や手指を使った遊びを計画的に取り組む		2 50%以上		
			1 体や手指を使った遊びを意識して取り入れる		1 50%未満		
☆保育・教育活動の充実	豊かな心と丈夫な体の育成	【保育の環境構成】 豊かな感性を育むために園庭での菜園活動や食育活動に取り組む	4 栽培計画の作成・改善を行う 月1回以上	2.5	4 園庭や畑で収穫した野菜に興味をもち、食べる意欲を向上した子ども 90%以上	3.3	年間を通じて畑に作物を植え、水やりなどの世話をし、収穫を楽しむ。収穫した野菜を食べることで食材や献立の名前に興味関心ができた子どもが増えた。
			3 園庭や畑での菜園活動や環境整備を行う 月1回程度		3 75%以上		
			2 2ヶ月に1回程度		2 50%以上		
			1 学期に1回程度		1 50%未満		
◆職員の育成・資質向上や運営	保育の意図や子ども理解を保護者と共有・共感をする	【情報提供】 保育や子どもに関する様々な情報を提供する	4 お便りや口頭での情報発信 週1回以上	2	4 保護者に楽しみにしてもらえるような紙面の工夫や内容である	2.8	お便りをカラー写真で見やすくし、リアルタイムで発行するように心がけた。今後は紙面で保育のねらいや保育者の思いを伝えられる工夫を研修等で学ぶ必要性を感じる。
			3 2週間に1回以上		3 園児の普段の様子や保育内容がわかるお便りを、写真などで解りやすく発信した		
			2 2週間に1回程度		2 お便りや口頭で個々だけではなくクラス全体の様子を知らせることが出来た		
			1 月に1回程度		1 保育をするうえで大事にしていることやそのことに関する子どもの様子を知らせた		
◆職員の育成・資質向上や運営	保育の意図や子ども理解を保護者と共有・共感をする	【組織運営】 保護者の意見等に関する共通理解と相談体制の確認	4 職員会議等での情報共有 月4回程度	2.9	4 保護者の状況に合わせた支援ができた 90%以上	3.6	保護者とのコミュニケーションを大事にし、各家庭に合わせた支援を行ってきた。情報や支援内容は全職員で共有し、対応できた。
			3 月3回程度		3 75%以上		
			2 月2回程度		2 50%以上		
			1 月1回程度		1 50%未満		
◎地域に開かれた園づくり	地域とともに歩む保育所づくり	【教材研究】 地域教材(資源)を活用する	4 地域の自然や教材を保育に取り入れる	2.8	4 地域の自然や教材を取り入れて楽しく遊んだ子ども 75%以上	3.2	季節の自然物遊びや制作等に取り入れ楽しむことができた。地域の方から収穫にも誘ってもらい、収穫を体験することができた。地域の様々な会合や事業所を訪問し、交流を深めることができた。
			3 地域の様々な施設を訪問し、興味や親しみがもてるようにする		3 65%以上		
			2 地域の自然物を環境に活かす		2 50%以上		
			1 地域の自然に触れて遊ぶ		1 50%未満		
◎地域に開かれた園づくり	地域とともに歩む保育所づくり	【地域住民との連携】 地域との交流活動	4 2ヶ月に1回以上	3.3	4 自ら積極的に地域の人と話をしたり、ふれ合ったりした子ども 75%以上	3.3	誕生会のお便りの掲示を地域の六ヶ所の事業所に増やすことで子どものことや行事食等を知らせることができた。地域の行事や催しに、積極的に参加して踊りや歌、ゲームなどを通してふれあうことができた。
			3 3ヶ月に1回以上		3 65%以上		
			2 学期に1回以上		2 50%以上		
			1 学期に1回程度		1 50%未満		